

# 老人性認知症疾患療養病棟を有する医療機関に関する調査 結果概要①

- 老人性認知症疾患療養病棟では、
  - ・約70%の医療機関で、平均在院日数が500日を超えていた。
  - ・約63%の患者で、在院日数が1年を超えていた。
  - ・約70%の患者で、入院時の入院形態が医療保護入院だった。
  - ・約60%の患者が、身体疾患を合併していた。
  - ・約49%の患者が、BPSD（認知症に伴う行動・心理症状）に対する薬物療法等を必要としていた。

## 老人性認知症疾患療養病棟の基本情報（23施設）

病棟数（病棟）	34棟
病床数（病床）	1,856床
入院患者数（人）	1,694人
病床稼働率（%）	91.3%

身体合併症を有する者(人) 1,009人(59.6%)

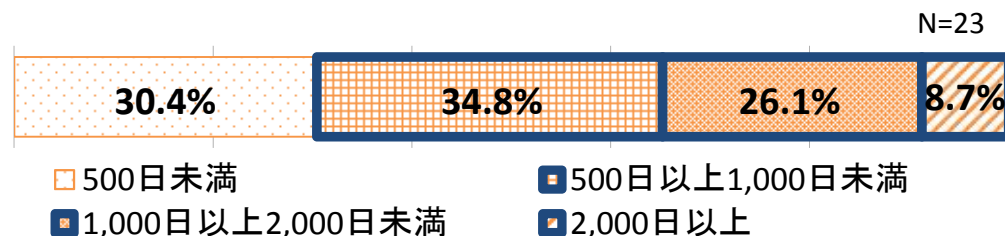
BPSDに対する薬物療法等が必要な者(人) 834人(49.2%)

※1 身体合併症を有する者の事例

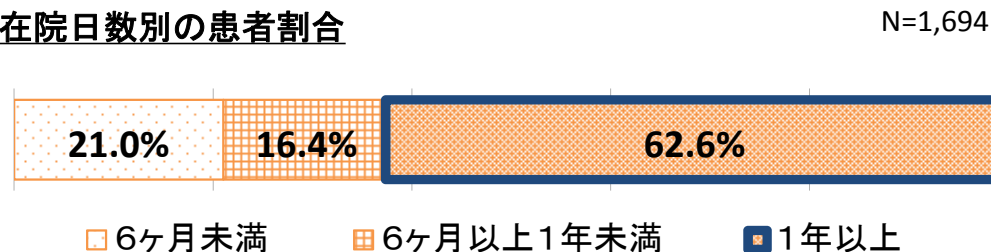
肺炎、悪性腫瘍、狭心症、慢性心不全、慢性腎不全、肝硬変、慢性閉塞性肺疾患、脳血管障害、脳挫傷、イレウス、膠原病、骨折などの内科的管理等を必要とする状態

※2 BPSD(認知症に伴う行動・心理症状)に対する薬物療法等が必要な者  
BPSDが著しい等のため薬物療法や専門的な医学管理が必要な者

## 平均在院日数別の医療機関の割合



## 在院日数別の患者割合



## 入院時の入院形態別の患者割合

